

【謙讓語 I】 自分の行為や物事を低めるで、行為の及ぶ先を高めて敬意を表す。
お伝えする。
ご連絡します。

【美化語】 上品さや美しさのレベルを上げる。
お手紙です。

NG 敬語：2重敬語

- ×) 鈴木部長様 ○) 鈴木部長
- ×) 鈴木先生様 ○) 鈴木先生

NG 敬語：逆転敬語

- ×) 部長にお伝えします。(外部の人に対して、自社の部長を高めている)
-) 部長に申し伝えます。

「伺う」は「聞く」の謙讓語。

- ×) 担当者から伺っております。
-) 担当者から聞いております。

NG 敬語：「お～できる」

×) お持ち帰りできます。(「～できる」は自分から相手に対して「できる」ことの謙讓表現なので、相手の行為には使えない)

-) お持ち帰りになれます。

×) ご利用できません。

-) ご利用になれません。

NG 敬語：「お～される」

×) 鈴木さんがご退席されます。(「される」はするの尊敬語で、「ご」がつくと2重敬語)

-) 鈴木さんがご退席されます。

NG 敬語：「自分を高める」

×) おわかりいただけましたか。(「おわかりですか」は相手の理解力を判断するような無礼な印象を与える)

-) ご理解いただけましたでしょうか。

接客業の敬語遣い

- ×) こちらでよろしかったでしょうか。(今、確認しているので、過去形は適切ではない)
-) こちらでよろしいでしょうか。

×) 鈴木様でございますね。「でございます」は丁寧語にも謙讓語にも使える。明確な敬意にした方がよい)

○) 鈴木様でいらっしゃいますね。

POINT

「させていただく」を使いすぎると
卑屈に聞こえる

解説

「させていただく」は、相手に何かの行為を承認してもらったり、許可してもらったりして、それをするとき用いる謙讓語。つまり、謙虚さをアピールするには便利のよい言葉で、何にでもつけてしまいがち。しかし、使いすぎると、卑屈に聞こえたり、口先だけの感じになってしまうので適切に使いたい。

使うときの注意として、「さ入れ言葉」にならないようにすること。「さ入れ言葉」とは、たとえば、「読ませていただく」「置かせていただく」であるべきところを、「読まさせていただきます」「置かせていただく」とするようになり、**不要な「さ」を入れること。**

相手の健康や繁栄を喜ぶ言葉

■健康で幸せな様を喜んで

- ご清祥せいしやう
- ご健勝けんしょう

■無事で栄えることを喜んで

- ご清榮せいえい
- ご繁榮はんしょう
- ご隆昌りゅうしょう
- ご安泰
- ご盛榮せいえい
- ご隆盛りゅうせい
- ご発展
- ご活躍

季節に応じた心情や季節感を表す言葉。手紙やメールの頭語に続けて使おう。

【1月】
 ●新春の候 ●厳寒の候 ●初春の候
 ●寒に入り、寒さがひとしお厳しくなってきた昨今ですが
 ●お正月気分が抜けた頃でしょうか
 ●寒気ことのほか厳しい折

【2月】
 ●立春の候 ●余寒の候 ●春寒の候
 ●暦のうえではもう春だというのに
 ●梅便りが届き始める頃
 ●立春とは名ばかりの、まだまだ寒さが厳しき折

【3月】
 ●早春の候 ●春暖の候 ●浅春の候
 ●日ごとに春の訪れを感じるようになりましたが
 ●暑さ寒さも彼岸までといわれますが
 ●桜前線が北上を始めましたが

【4月】
 ●陽春の候 ●花曇りの候 ●花冷えの候
 ●春爛漫の折から
 ●色とりどりの花が咲き揃う季節になりましたが
 ●桜も散り、葉桜が鮮やかな折

【5月】
 ●新緑の候 ●薫風の候 ●立夏の候
 ●新緑が目に鮮やかな季節になりましたが
 ●薫風る5月となりましたが
 ●夏を思わせる日差しに日陰が恋しい季節となりましたが

【6月】
 ●梅雨の候 ●向暑の候 ●初夏の候
 ●梅雨空のうっとうしい季節となりましたが
 ●紫陽花の花が雨に映える季節ですが
 ●梅雨明けを待ち焦がれる日々

【7月】
 ●盛夏の候 ●炎暑の候 ●酷暑の候
 ●梅雨明けに暑さひとしおの折
 ●いよいよ夏本番、蝉の声もひととき高く聞こえますが
 ●お子様方は楽しい夏休みを迎えられ

【8月】
 ●晩夏の候 ●残暑の候 ●納涼の候
 ●熱帯夜の続く毎日ですが
 ●花火大会の喧噪に夏の終わりを感ずる今日この頃
 ●立秋を過ぎても蒸し暑さはまだまだ続いていますが

【9月】
 ●初秋の候 ●早秋の候 ●秋色の候
 ●一雨ごとに涼しさを感じるようになってまいりましたが
 ●ようやく残暑が和らいできましたが
 ●秋刀魚が美味しい季節となりましたが

【10月】
 ●秋冷えの候 ●紅葉の候 ●秋麗の候
 ●街路樹が赤や黄に色づき始めましたが
 ●味覚の秋、口にするもの皆美味しく感じる今日この頃ですが
 ●灯火親しむ秋

【11月】
 ●晩秋の候 ●落葉の候 ●暮秋の候
 ●紅葉がますます鮮やかに夜空に映える季節ですが
 ●日ごとに寒さが増し、厚手の服を出そうかと迷う今日この頃ですが
 ●冬將軍の足音が聞こえてくる季節

【12月】
 ●師走の候 ●初冬の候 ●初雪の候
 ●年の瀬も押し迫ってまいりましたが
 ●年末年始を迎える準備で忙しい折
 ●カレンダーも最後の1枚となり、一年が過ぎる早さを実感する年末ですが

無知の知

ソクラテスの有名な言葉。自らの無知を自覚することが、真の知に至る出発点となるという意味が込められている。

相殺

○そうさい △そうせう

「そうさい」と読むと帳消しを意味する。「そうせう」の場合は殺し合うことを意味する。「そうさい」で使われることが多い。

出来

○しゅつたい Xしゅつらい

物事が起こること。「しゅつらい」が転じて「しゅつたい」になった。「事件出来」などを使う。

忌中

○きちゆう Xいちゆう

近親者が喪に服す期間のこと。「忌」の音読みは「キ」で、訓読みの「い(まわしい)」「い(む)」と混同しないように、「忌引き」も同様。

参詣

○さんけい Xさんもう

「詣」の音読みは「ケイ」。訓読みの「もう(で)」と混同しない。

野に下る

○やにくだる Xのにくだる

「下野(げの)すること。「野」は民間を意味する。政府の一員だった閣僚や議員、官僚などの公務員が辞職に追い込まれるなどして民間人になること。

貼付

○ちゆうぶ △てんぶ

貼り付けること。「てんぶ」は慣用語読み。「メールに貼付して送る」というときに多く使うが、「てんぶ」のほうが相手に伝わりやすい。「添付」は「てんぶ」で正しい。

乳離れ

○ちばなれ Xちちばなれ

赤ちゃんが成長して母乳を飲まなくなることを。「乳」は「ちち」ではなく「ち」と読む。「乳房」も「ちち」と読む。

手繰る

○たぐる Xつぐる

手元へ引き寄せること。「手」の訓読みは「て」「た」があり、「た」と読むものには手綱、手向ける、手折るなどがある。

代謝

○たいしゃ Xだいしゃ

新陳代謝の「代謝」。「代」は音読みで「ダイ」「タイ」がある。訓読みは「か(える)」「よ(し)ろ」。「永代」も「タイ」と読む。

特徴／特長

【特徴】良い点・悪い点に関係なく目立つところ。「目が特徴」。
【特長】ほかよりも特に優れた点。特別の長所。

主宰／主権

【主宰】団体などを中心となって運営すること。「劇団主宰」など。
【主権】会合やイベントなどを行うこと。「新聞社主権」など。

行程／工程

【行程】目的地へ着くまでの距離、道のりのこと。「30分の行程」。
【工程】仕事や作業を進めていくときの順序のこと。「工程表」。「作業工程」など。

ビラを配布する ×「配付」を配付する

「布」には行き渡らせるという意味があり、「配布」は一般に行き渡るように配ることを意味する。「配付」は特定の人々に配ること。

礼賛

Ohaiyan x leiisan

褒め称えること。元は仏教用語。「礼」には「ライ」「レイ」の音読みがあり、「礼拝」は、仏教では「らいはい」、キリスト教では「れいはい」と読む。

リラクゼーション→リラクゼーション

表記は混在しているが、「Relaxation」の発音は「ゼ」のほうが正しい。その概念が日本に入ってきたとき「ゼ」と表記されたため定着してしまった。

唯々諾々

自分で考えることをせず、他人の主張や要求の言いなりになること。

【用】唯々諾々と指示に従った。

晴耕雨読

晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家の中で読書をするという意味から、世間の煩わしさから離れて、田舎で心穏やかに暮らすこと。

【用】理想は晴耕雨読の生活です。

不撓不屈

強い意思をもち、どんな困難にもくじけないこと。

【用】不撓不屈の精神。

保証／補償／保障

【保証】責任をもって間違いのないと請け合うこと。
【補償】損失や損害を補って償うこと。「災害補償」。
【保障】地位や権利などを保護すること。「社会保障」「安全保障」。

ri:læksɪʃən (米国英語), ,ri:læ'kseɪʃən (英国英語)

エンスト (エンジンストール)

「engine stall」。「stall」は「失速」「停止」を意味する。「エンジンストップ」の略ではない。「ストップ」は「止める」という意味が強い。